第１３課　僕の共同体

【暗唱聖句】

「約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ…ましょう」へブル10：23～25

【日曜日・変化をもたらす使者】

イエス様は、クリスチャンは世の光、地の塩であるといわれましたが、パウロはさらに様々な比喩を用いて例えており、他の人に変化をもたらす存在となります。

**「…自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」ローマの信徒への手紙12章 1節**

＊クリスチャンはキリストに自分自身をささげた者です。いけにえと表現されるのですから、大変なこともあるでしょうが、神様に自分自身をささげることによって、キリストが生きてくださいます。

**「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である」コリントの信徒への手紙一12章 12節**

＊クリスチャンは同じ体を構成しているパーツです。このことを認めることによって、謙遜にさせられ、互いを認め合うことができるようになります。

**「ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい」コリントの信徒への手紙二5章 20節**

＊クリスチャンは神様から世に使わされた使者としての使命があります。

**「神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るという知識の香りを漂わせてくださいます。救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。滅びる者には死から死に至らせる香りであり、救われる者には命から命に至らせる香りです。このような務めにだれがふさわしいでしょうか」コリントの信徒への手紙一2章 14節～16節**

＊クリスチャンはキリストの香りとなります。自分に死に、キリストが代わりとなって生きて下さるとき、キリストの香りを放つようになります。

【月曜日・仕える残りの者たち】

残りの民の特徴は、**「神の掟とイエスの証を守る」（黙示録12：17）**聖なる者たちであることです。厳格なイメージがあるかもしれませんが、神の掟とイエスの証の中心は愛ですから、残りの民とは最も愛に富む人々と言い換えることができるかもしれません。

そもそも最初に神様の掟を授かったのは偉大なる指導者モーセでしたが、民たちは神様の掟を軽んじる軽率な行為により、**「わたしの怒りは彼らに対して燃え上がっている。わたしは彼らを滅ぼし尽くし、あなたを大いなる民とする」（出エジプト記 32章 10節）**と言われるほど、神様は怒られます。それに対してモーセは**「主よ、どうして御自分の民に向かって怒りを燃やされるのですか。あなたが大いなる御力と強い御手をもってエジプトの国から導き出された民ではありませんか」（出エジプト記32章 11節）**と言って、神様をなだめ、民をとりなすのです。神様はアブラハムにイサクを捧げよと試されたように、ここでもモーセの民に対する愛を試されたのでした。モーセは、**「ああ、この民は大きな罪を犯し、金の神を造りました。今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば…。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください」（出エジプト記32章 31、32節）**と、自分を犠牲にまでしてとりなしたのでした。

【火曜日・人の心を動かす】

教会で福祉の働きは大切ですが、伝道の方が大切ではないかという議論が起こるときがあります。エレン・G・ホワイトは「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす…救い主は人の利益をはかられ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして「わたしについて来なさい」とご命令になった。貧しい者を助け、病める者を看護し、悲しむ者、親しい人を失った者を慰め…泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである」と言っています。つまり、福祉はキリストに導くための有効な手段でもあるということです。

**「異教徒の間で立派に生活しなさい。そうすれば、彼らはあなたがたを悪人呼ばわりしてはいても、あなたがたの立派な行いをよく見て、訪れの日に神をあがめるようになります」ペトロの手紙一2章 12節**

善い働きは、主の栄光となり、人々の心を動かす力となるのです。

【水曜日・教会の中の恵み】

**「あなたがたはもはや外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり…」エフェソ2：19**

教会の人たちはみな聖なる民に属し、神様の家族であると聖書は教えます。家族ということは、赤の他人ではないとうことです。家族が愛し合い、支え合うのは当然のことです。そこに損得勘定は普通入りません。時には、自分を犠牲にしてまで、家族を優先することも少なくありません。教会も同様です。特に、弱く小さな者を優先するのです。教会は家族なので、暖かで、居心地が良いのです。これは教会に与えられた恵みなのです。

【木曜日・善行をするように励まし合う】

**「互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか」ヘブライ10：24、25**

教会が互いに励まし合うところです。信仰歴の長い立派なクリスチャンであっても、この世の試練に巻き込まれて、不信仰に陥ったり、くじけそうなることはあります。そのようなときに、教会家族は励まし、支えるのです。ただ単に神様を信じるのであれば、一人でもできるかもしれません。しかし、愛し合い赦しあい励まし合うことは、一人ではできません。聖書は、特に愛と善行に励むように励まし合おうと言っています。互いに集まって神様を礼拝したり、祈ったりするのも同様です。どこの教会でも祈祷会の出席がすっかり減ってしまいました。そのようなとき、それを嘆くのではなく、出席できるように励まし合うのです。教会に行けなければ、インターネットを使って参加することもできます。そうすることで、互いに励まし合うことができるでしょう。